教育実践学研究第２号　１９９８．３

不登校児童に対する援助活動の在り方
ーコラージュ療法を通してー

茨城大学教育学部助教授　生越　達
茨城県教育研修センター指導主事　山口　豊一
茨城県教育研修センター研修員　長岡　秀雄

小学校低学年の不登校児童に対する援助活動の在り方について研究を進めた。コラージュ療法を取り入れた面接を行った。特に，コラージュ療法における相互法に視点を当て，理論的考察，コラージュ作品，クライエントの様子の検討を通して，不登校児童に対する援助活動の在り方について考察した。

Ⅰ　はじめに

援助活動は，援助関係を成立させていく段階，児童理解を深めていく段階，理解に基づいて援助の方策を立てる段階及び援助を展開していく段階の四つに分けることができると考える。これらの中でも，児童理解を深める段階が最も大切であると考える。その理由は，児童理解が，援助の方策を立てたり，援助を展開したりすることと密接にかかわっているからである。

Ⅱ　研究の内容

1　理論的考察

(1)　援助活動における人間観

援助活動を展開する上で，人間観をどのようにとらえていくかが重要であると考える。

ロージャズは，『人間論』の中で，「人間を含むあらゆる有機体には，自らを維持し実現しようとする傾向が備わっている。」[1]　と述べ，さらに「人間の成長への可能性を信頼することである。」[2]と述べている。

カウンセラーの基本的態度は，説諭や忠告をしたり，問題解決の方法を教示したりするのではなく，クライエントの人格を尊重し，その自己成長力への信頼を基盤にして，理解しようとかかわっていく態度であるととらえた。

(2)　援助活動に取り入れたコラージュ療法

①コラージュ療法とは

杉浦京子は『コラージュ療法』の中で，「コラージュ療法は現代美術の技法の一つであるコラージュ（切り貼り絵）を個人心理療法に導入したものであり，日本で1987年頃から始められたまだ新しい心理療法である。方法は，雑誌やカタログ，その他の印刷物から写真や絵，文字などを自由に切り抜き，台紙にレイアウトして貼り付けるものである。（中略）コラージュ療法は，『持ち運べる

箱庭」「ミニ箱庭」などのコンセプトで発想されたものであり，クライエントは，「切り抜き」という既成のイメージをそのまま用いて自己表現を簡単にすることができる。他の芸術療法と同様に作品を作ること自体に自己治療的な要素がある。」[31] と述べている。

つまり，コラージュ療法は，箱庭療法を基にして発展してきたものである。

②コラージュ療法の方法

ア　マガジン・ピクチャー・コラージュ法

　　クライエントが自由に切りはりする方法

○用意するもの

・台紙：画用紙，色画用紙

・はさみ：(相互法の場合は２つ) 先が丸いものがよい。

・のり：(スティック糊が便利)

・雑誌，新聞，広告の紙，カタログなど：あらかじめ治療者側で用意しておく。２回目以降は，クライエントに切り取ってもいいものを持ってきてもらうと，より治療的であることが多い。

○準備する上での留意点

※どんな雑誌を用意すればよいか。

基本的には，用意できる範囲でかまわない。

できれば，人，動物，木，花，乗物，建築物，橋，石，怪獣など

(箱庭療法で用意するものを参考)

○導入のしかた（児童生徒の発達段階に応じて）

「コラージュを作ってみませんか。コラージュというのは，自分の気に入った写真（イラスト）や気になる写真（イラスト）を，自由に切り抜いて台紙の上に好きなようにおいて，のりづけして作るものです。」

または，「雑誌などから好きな写真や気になる写真を切り抜いて，好きなように台紙に貼って下さい。」

※２回目からも「今日はどうしますか。」と尋ね，拒否できる場の雰囲気をつくっておくことが必要。(安全性や回避性)

○作成中

終始許容的な態度で，その作品のできあがってゆくのを共に味わい楽しむような気持ちで。

○完成後の処置

作品を眺めながら，感想を交わす。解釈的なことを言う必要はない場合が多い。

「いいものができましたね。」

「今日，作ってくれたものについてもしよかったら話してくれるかな。」

「この中で特に気に入っているものはあるかな。」

「この中に自分がいるとすれば，どれかな。」など

○時間（30分～１時間）

導入，作品づくり，感想の話し合いを含めて５０分程度がよいのでは。

完成しないときは，どうするかを確認する。

（次回のときの導入のときも続きをやるのか，新しいものをやるのか）

○その他　相互法／家族コラージュ法・母子相互法・合同法／自宅制作法／裏コラージュ

イ　コラージュ・ボックス法

あらかじめカウンセラーが切り抜きを用意しておく方法

○用意するもの

・カウンセラーがさまざまな本やカタログから数十枚の切り抜きを用意しておく。特定のクライエントに実施することがわかっている場合は，クライエントが好みそうなものを選んでおく。

・コラージュ・ボックス（A4判程度のお道具箱のようなもの）にアの切り抜き，先の丸いはさみ，のりを入れておく。

・台紙

○導入のしかた

「ここにある切り抜きを画用紙に貼り付けてください。」

「必要があれば，はさみで切ってもよい。」

○作成中（マガジン・ピクチャー・コラージュ法に同じ）

○完成後の処置

できあがった作品をもとにして，その連想を尋ねたり題を付けてもらったり質問をする。解釈的なことは言う必要はない。

③コラージュ作品の見方と解釈

作品の解釈について，河合隼雄は『箱庭療法入門』の中で，「いわゆる『解釈』のようなものは全然与えず，作品が作られていくときのクライエントの心の動きに，できるだけ従っていこうとしている。それでは，箱庭の作品に対する意味付けは全く不要と思われるが，実は，それなしでは治療が行い難いところに心理療法の二律背反性が存在している。（中略）クライエントが治療者のある程度の受容性に支えられて表現を行い，その表現によって治療者は（解釈を通じて），クライエントの内面に触れ，より受容的になっていく。」[4] と述べている。

系列的理解：作品を継続的に作成してその流れを見る。

統　合　性：作品を見たときに全体として受ける感じをつかむ。

空 間 配 置：空間のどこにどのようなものがはられているかを見る。

主　　題：表現の中でテーマを見いだす。

象徴的意味：はってあるものの表す意味を受け止める。

④コラージュ療法の治療過程と治療的要因

まず，コラージュ療法に流れているカルフの考え方について触れてみる。

カルフは，箱庭療法において，「母子一体感」と「自由で保護された空間」の2点を重視した。母子一体感とは，クライエントと面接者の間に，乳児期に体験するような母子一体感が必要であるということである。自由で保護された空間は，箱という枠と，クライエントと面談者との間で作られる場の雰囲気を示したものである。この保護された空間においてこそ，無意識から湧き出てくるものが，作品に投影され，制作されると考えられるのである。

さらに，カルフは，箱庭療法の治療過程について，動物・植物的段階，闘争の段階，集団への適応段階を踏むと主張している。動物・植物的段階とは，本能的，衝動的，無意識なものが表現されていることを示す。問題行動が消去するためには，無意識的なものの一部が整理されることが必要であり，それは，作品や夢などによって，無意識の世界が意識化されることである。動物・植物的段階では，作品自身も動物や植物が多く使用された作品となる。闘争の段階では，戦いや動きが表現される。戦いなしでは，新しい秩序が生じてこない。

集団への適応段階は，新しく秩序づけられたことを示すものである。この段階の作品は，公園や町等，静かなものが多い。

次に，コラージュ療法の治療条件について，中井久夫は，「是認し賛美してくれる対象（人物）が必要であり，治療者が冒険の話を聞くような姿勢を示すということが，コラージュ過程を治療的なものとして完成させるのであろう。」[5] と述べている。また，杉浦京子は『コラージュ療法』の中で，コラージュ療法の治療的要因として，安全性や回避性，分散と統一，心理的退行，自己表出，内面の意識化，自己表現と美意識の満足，言語面接の補助的要素，診断材料，ラポール・相互作用・コミュニケーションの媒介などを挙げている。[6]

コラージュ療法の治療過程と治療的要因を図１のようにまとめた。

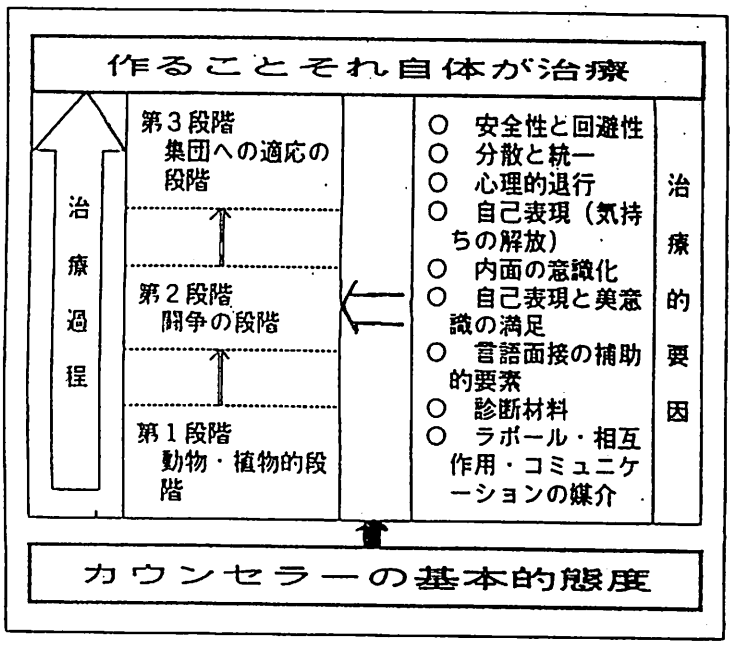


図１　コラージュ療法の治療過程と治療的要因

⑤児童理解を深めるために

言語を頼りとして児童理解を深めていくことは，重要なことであり，援助活動の基本となることは言うまでもない。さらに，それに加えて，非言語的コミュニケーションの部分での児童理解を積み重ねていく姿勢を大切にしていきたいと考える。

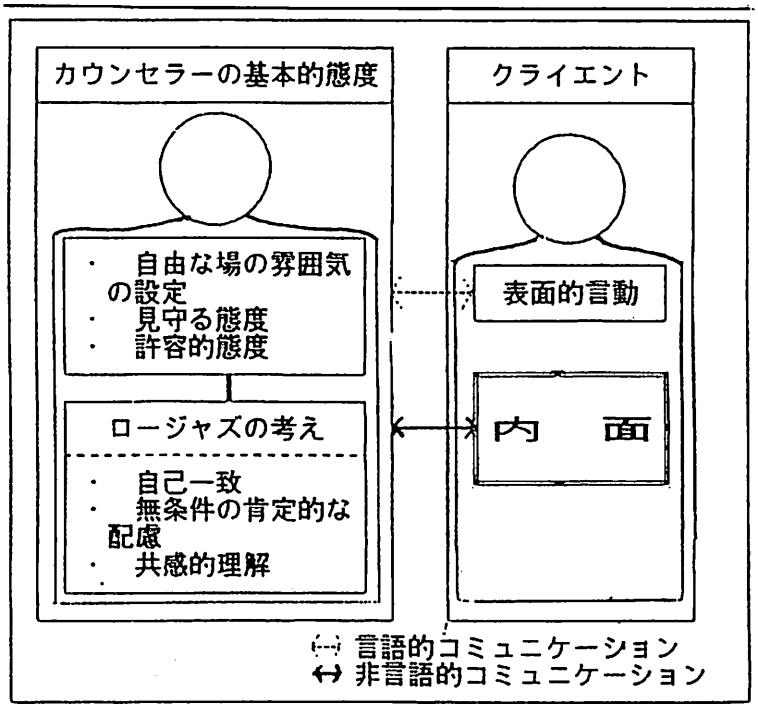


図２　私のとらえた児童理解

つまり，図２のように，児童理解を児童の表面的な言動による理解だけではなく，今まで気付かなかった児童の内面を多面的に理解していくことの積み重ねであるととらえた。

2　事例から

(1)　事例１

①　プロフィール

Ａ男は，小学校３学年。家族構成は，父，兄２人，母の５人家族である。表情が暗く，笑った顔が見られない。友達とのトラブルをよく起こす。感情を言葉にして表すことが少ない。また，登校を渋る傾向も見られる。学校ではよく手伝いをする。

②　面接の経過

〈第１回面接〉　　○　攻撃的な面と守られたいという面の二面性をテーマにしているＡ男

Ａ男のコラージュ作品	Ａ　男　の　様　子
蛇 山椒魚 狸 カエル 子猫 子犬 亀	○最初，緊張気味であったが作品づくりに意欲的に取り組む。 ○１学期には見られなかった笑顔が，作品づくりを通して見られる。 ○面接から戻ると，明るい表情で「楽しかった。また来週もやるんだ。」と担任の先生に話す。 また，後日の日記にも楽しかったことを書く。

（考察）

Ａ男の作品の中の左上は蛇が蛙を飲み込んでいる写真の切り抜きであり，攻撃性を表していると考えられる。これは，友達とトラブルを多く起こすこととも関連があると思われる。この切り抜きを探すのにＡ男はかなり時間をかけていた。Ａ男の作品の子猫や子犬と面接の中で見せてくれたＡ男の笑顔から，私は，Ａ男が友達とトラブルをよく起こすというＡ男の一面にだけしかとらわれていなかったことに気付かされる。

〈第２・３回面接〉　○　戦いをテーマとしているＡ男

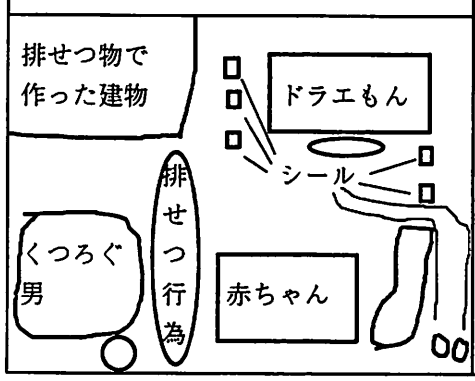
Ａ男のコラージュ作品	Ａ　男　の　様　子
飛行機 争っている様子 自分で描いたキャラクター アンパンマン	○トイレに行くのも後回しにして，相談室に来る。 ○作品作りに熱中している。約束の時間が来ても，もっと続けたい様子である。 ○学校生活に次のような変化がみられるようになる ・生活に落ち着きが見られるようになる。特に，級友とのトラブルが減る。 ・学習用具（社会と理科のノートを用意するようになる。

（考察）

今回の面接の特徴は，A男が3階にある相談室まで駆け上がってきたことと，面接の中でA男自ら話しかけてくれたことである。A男との親和感が生まれつつあると感じられる。

A男の作品の左下にある漫画のキャラクターは，切りはりをしないでA男が自ら描いたものであり，攻撃性を感じる。右側の入学式の絵もけんかをしている様子から攻撃性を感じる。さらに，1作目と比べ活動性・躍動感も感じる。A男の作品の中に攻撃的なものがさらに出てくるようだと，表面的な日常的行動も落ち着いてくることが予想される。

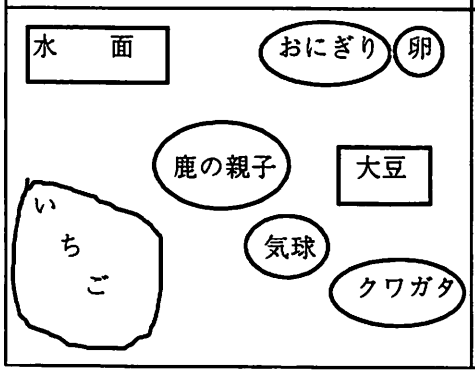
〈第4回面接〉　○　排せつ物をテーマとしているA男

A男のコラージュ作品	A　男　の　様　子
	○私の顔を見るときの笑顔や，場面構成でA男の意志確認をしたときの「はい。」という返事がとても明るい。 ○私自身のことを聞いてきたり，笑顔で切り抜きについて説明したりするようになる。

（考察）

A男の作品の左側には排せつ物の切り抜きが多い。これは，A男の心の中にたまっていた不満等が表出したものと考えられる。コラージュ作品においては，不満等を表出するということから排せつ物は明るい見通しがもてる象徴と解釈することが多い。また，明るい漫画のキャラクターが増えている。左下の新聞を読んでいる男性は，くつろいでいるというイメージがある。この切り抜きを選んだ背景には，A男の日常的な行動が安定してきたため，父親のA男に対する態度が温かく変わってきたことと関連があるものと考えられる。

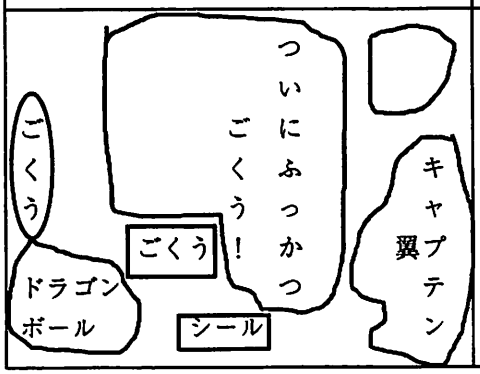
〈第5回面接〉　○　ぬくもりをテーマとしているA男

A男のコラージュ作品	A　男　の　様　子
	○場面構成のときのA男の「はい，やります。」という言葉が力強い。 ○A男の学校生活での変化 ・授業に対し，一生懸命取り組もうとする姿が出てくる。 ・友達に自分から溶け込んでいこうとする姿が出てくる。

（考察）

今回のＡ男の作品は，鹿の親子の触れ合い，大きないちご，気球，卵，大豆など全体的に明るい落ち着いた切り抜きから構成されている。特に，鹿の親子の切り抜きは，秋山さと子の空間図式で見ると，自己を表しており，今までには見ることができなかったものである。つまり，前回までの作品で攻撃的な物や排せつ物等をはることにより，カタルシス効果があったものと考えられる。また，大きないちごや卵も前回までの作品と考え合わせると，何とも言えないぬくもりが感じられる。

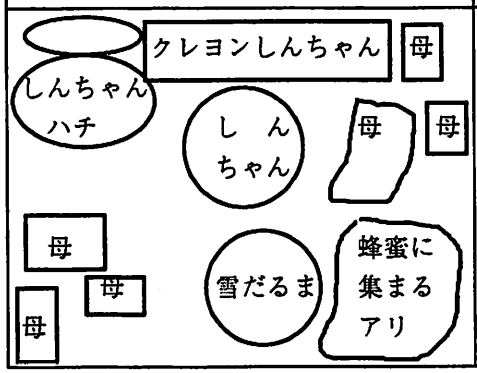
〈第６・７回面接〉　○　新たなる出発，以前とは違った戦いをテーマとしているＡ男

Ａ男のコラージュ作品	Ａ　男　の　様　子
	○明るい表情で相談室に入って来る。 ○Ａ男は作品作りに集中する。 ○「ついに　ふっかつ　ごくう」の切り抜きが大変気に入った様子である。 ○日常生活も安定している。

（考察）

Ａ男の作品は，第６回と第７回の２回の面接で作成したものであり，主にドラゴンボールＺの主人公とキャプテン翼の主人公とで構成されている。これらのキャラクターのイメージと，Ａ男がとても気に入ってはった中央に切り抜きの文字「ついに　ふっかつ　ごくう！」から，私は，Ａ男が自分自身で変わろうとしているのではないかと感じた。杉浦京子氏の「自分の内的世界を台紙の中に整理していくこと（コラージュ・アクティビィティ）には，総合的，全体的な新しい自分を洞察するという心の発達が含まれているのである。」ということにＡ男が一歩踏み込もうとしているのではないかと感じられる。

〈第８回面接〉　○　母親とのかかわり，人と昆虫との触れ合いをテーマとしているＡ男

Ａ男のコラージュ作品	Ａ　男　の　様　子
	○相談室に入って来るなり，「やろう。」と言い，すぐにでも始めたい様子である。 ○Ａ男の学校生活での変化 ・国語，算数のノートを用意し，授業にまじめに取り組むようになる。 ・友達から「Ａ男君はねえ，こんなひどいことをするんだよ。」という訴えがなくなる。

（考察）

今回のA男の作品は，クレヨンしんちゃんと母親を中心に構成されている。母親に関する切り抜きは，4作目の鹿の親子と今回の作品だけである。これは，母親に甘えたいという欲求の表れと感じ取ることができ，A男の今までとは違った一面が見られる。左上や右下のはちみつに寄って来るハチやアリは，自分の方に寄って来るというイメージから，A男が友達とも仲よく遊ぶことができるようになってきたことと関連があると思われる。

〈A男の作品の流れから〉

A男の作品の1作目から3作目までは，攻撃性を感じるものやA男の不満・不安感情を訴えるものがほとんどであった。この時期のA男の学校生活での変化は，笑顔が増えたこと，友達とのトラブルが減ってきたこと，社会や理科のノートの準備をするようになったことなどである。4作目は一転して落ち着いた温かい作品となっている。この時期のA男は，授業に一生懸命取り組もうとする姿勢や，友達に自分から進んで溶け込もうとする態度が見られるようになった。また，面接の中でA男が進んで話しかけてくるようになった。5作目，6作目を作成する頃のA男は，国語や算数のノートを用意し授業にも最後まで真剣に取り組んだり，友達と仲よく遊んだりすることができるようになった。クラスの中では「A男君はねえ，こんなひどいことをするんだよ。」などの訴えがなくなった。また，盗癖もなくなった。このような一連の変化は，A男が作品作りを通して，変わってきたものと考えられる。

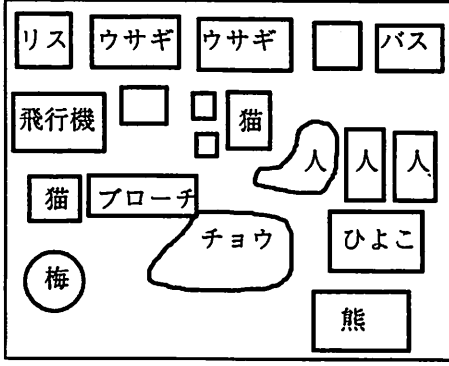
(2) 事例2

① プロフィール

B子は，小学校3学年。家族構成は，父，母，妹4人の7人家族。不登校の傾向が見られる。登校しても，腹痛を訴えることが多く，保健室で過ごすことが多い。

② 面接の経過

〈第1回面接〉 ○ 甘えたい気持ちと忍耐をテーマにしているB子

B子のコラージュ作品	B 子 の 様 子
	○コラージュ作品作りに喜んで取り組む。 ○作品について，いっしょうけんめい話したい様子であったが，的確な言葉がみつからない様子であった。 ○応答数 5

（考察）

全体的に，手触りがいかにも温かい小動物と植物から構成されている。リスやウサギ等の小動物は，スキンシップを求めているものと思われる。作品の下部には空白がある。これは，精神的には，甘えたいと思っていても，我慢していて満足できない状態にあることと考えられる。また，左下の

梅は忍耐の象徴であると考えられる。この作品を通して，B子が母親に甘えたくても，甘えられないB子の一面を感じることができた思いである。

〈第2回面接〉　○　親子の交流と忍耐をテーマにしているB子

B子のコラージュ作品	B　子　の　様　子
シロクマ　人　イチョウ　春の様子　シロクマ　たちあおい　いらがのまゆ　働く人　合歓木　ウサギ　ひまわり　猿	○早く作りたいという様子で，すぐに取り組む。 ○作品作りには，「うん，うん。」とうなずきながら進めていた。全体的に笑顔が増えてきた。 ○作品ができあがった表情が，とても満足そうであった。 ○切り抜きに対して説明してくれる。

（考察）

左上のシロクマの親子は，親子の交流を求めているものと思われる。しかし，寒い所の動物であることや，右下の「いらがのまゆ」から，前回の作品と同様，忍耐の感じを受ける。

左下のウサギと汗を流している女性の切り抜きや，作品作りに取り組む様子から，エネルギーが出てきたと感じられる。

〈第3回面接〉　○　母親への感情，対比するものをテーマにしているB子

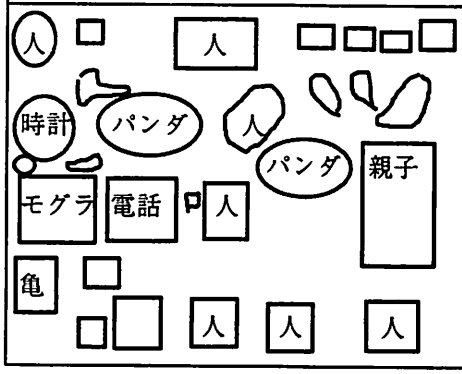
B子のコラージュ作品	B　子　の　様　子
ウサギ　人　鶏　人　いちご　ひよこ　人　猫　いちご　人　人　ひよこ　人　犬	○面接予定時刻より，8分早く相談室に来る。手提げには切りはり用の本を持参する。 ○前回と同様，作品作りに進んで取り組む。また，満足そうな表情が印象的である。 ○朝，徐々に体の不調を訴えることが少なくなってきた。（担任の先生の話）

（考察）

作品上部（精神的部分）は，空白というより台紙の赤，つまり，母親がB子のことを甘えさせてくれないということに対する感情が表出したものと考えられる。いちごの赤い物（食べられる）・青い物（食べられない物）やひよこ（小さい物）・鶏（大きい物）が対比的に貼られている。

全体的に笑顔の切り抜きが多くなってきたことは，作品作りを通して心情を表出できたことと，体の不調を訴えることが少なくなってきたことと関連があると思われる。

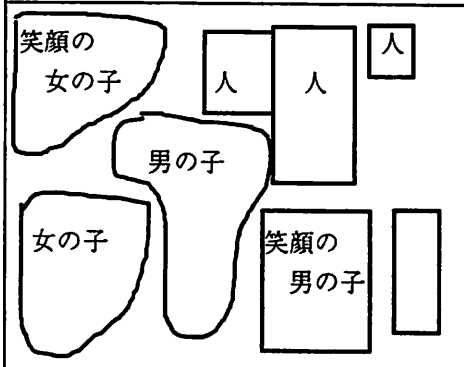
〈第４回面接〉　○　気持ちをより伝えたいことをテーマにしているＢ子

Ｂ子のコラージュ作品	Ｂ　子　の　様　子
	○前回同様，約束の時刻より早く，本を持って相談室に来る。 ○のびのびと作品作りに取り組む。 ○担任の先生に不調を訴えることが半減し，クラスで過ごすことが多くなる。 ○通学班で上級生に迷惑をかけることが少なくなってくる。

（考察）

左下に電話が貼られている。これは，自分の気持ちをもっと伝えたい，話をしたいという気持ちの表れであると思われる。このことから今後の面接の中で，Ｂ子からの言葉が増えていくことが予想される。時計の切り抜きは，話をする時間がたくさんあることを意味すると考えられる。このことは，Ｂ子が面接に対して，安心感・自由感を感じてきたためと思われる。

〈第５回面接〉

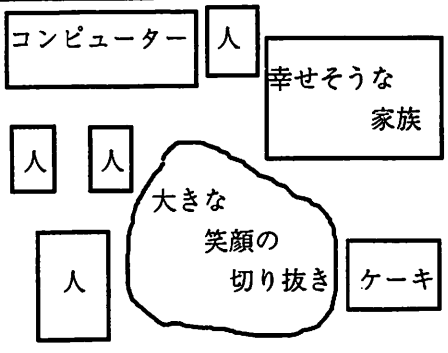
Ｂ子のコラージュ作品	Ｂ　子　の　様　子
	○応答数が67と急激に増加する。 ○鼻歌を歌いながら作品作りをする。楽しそうである。 ○家族のこと，学級のことなど身近な話をするようになる。

（考察）

左上の女の子，中央下の男の子の笑顔から，満足感・充実感を感じる。これは，学校行事に参加できたことや，遅刻をしないで登校できていることと関連があると思われる。右下の切り抜きの言葉「たしか，体がぐんぐんちっちゃくなってたよーな」は，Ｂ子がとても気に入って貼ったものである。これは，Ｂ子が小さくなれば母親に甘えることができるという思いが表出していると考えられる。

今回の面接では，家族のことや学級のことを進んで話をしてくれるようになった。話すときの満足そうな表情がとても印象的である。

〈第６回面接〉　○　笑顔をテーマにしているＢ子

Ｂ子のコラージュ作品	Ｂ　子　の　様　子
	○面接中の声が以前より大きくなる。 ○保健室にいることがなくなり，元気に学級で過ごすようになる。 ○欠席もなくなり，朝，体の不調もほとんど訴えなくなる。 ○休み時間，友達と仲よく遊ぶ姿が見られるようになる。

（考察）

中央下の切り抜きに見られるように，全体的に笑顔の切り抜きが多い。また，右上の動物の集団に温かさを感じる。これは，Ｂ子の学校生活が安定していることと関連があると思われる。

ケーキの切り抜きは，母親がケーキを作っているものであったが，ケーキだけを切り取ったものである。

〈Ｂ子の作品の流れから〉

１作目，２作目では，甘えたいという感情と忍耐を訴えるものがほとんどであった。この時期のＢ子の変容としては，笑顔が増えたことやエネルギーが出てきたことである。３作目は台紙に赤の色画用紙を選び，母親に対する感情を表出している。４作目では，電話を切り抜くことにより，自分の気持ちをもっと知ってもらいたいという感情を表出している。この頃のＢ子の学校生活での変化は，徐々に体の不調を訴えることが少なくなってきたことである。５作目，６作目では，笑顔の切り抜きが多くなってきている。家族のことや学級のことを進んで話すようになってきた。また，学校生活も安定し，体の不調を訴えたり，欠席することも少なくなってくる。

Ⅲ　おわりに

小学校低学年の不登校児童に対する援助活動を展開するために，コラージュ療法を取り入れた面接を行った。その結果，次のようなことを体験的に理解することができた。

1　コラージュ療法を通して，多面的な児童理解が深まっていくとともに，治療効果も促進される。

2　コラージュ療法の解釈については，継続的，多面的な見方をする必要がある。

3　作ること自体が治療である。

今後の課題として次のことを挙げ，これからも，実践的に学んでいきたい。

○　コラージュ療法について，さらに理論的，実践的な研究を深める。

○　よりよい相談の在り方を求めて，資質の向上を図る。

(註)

（1）村上正治編訳，1967.『ロージャズ全集１２巻　人間論』，岩崎学術出版社，pp.49-58
（2）同上，pp.87～110
（3）杉浦京子，1994.『コラージュ療法』，川島書店，はじめに
（4）河合隼雄，1969.『箱庭療法入門』，誠信書房，p.19
（5）中井久夫，1993.『コラージュ療法入門』，創元社，pp.67-72
（6）杉浦京子，1994.『コラージュ療法』，川島書店，pp.25-30